

グローバル展開プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

◆課題:「グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較」

◆研究テーマ:

「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」

研究期間:H29.2~H31.9
委託費総額:23,400千円

<研究代表者>

堤一昭:大阪大学大学院文学研究科/教授



<専門分野>東洋史学、歴史教育

<Webページ>(大阪大学歴史教育研究会)

<https://sites.google.com/site/ourekikyo/>

※本研究のウェブサイトは、H28年度に開設

<研究目的・概要>

- ・国民国家中心の歴史学・教育の問題点ーアジア諸国共有
(自国史・世界史の分立) (自国語中心の発信・教育)



教育面から国際比較を行い、グローバル化時代にふさわしい歴史学の発展をめざす

- a)国内の研究メンバー:【比較研究】世界/国内の大学歴史教育、グローバルヒストリーとの接続、【授業開発】高大接続と教員養成教育、自国史教育の国際化など
- b)協力関係にある海外の研究者(中国・韓国・シンガポール・米国など):【比較研究】、【若手育成】など
- c)事務局による、a)、b)の統轄・運営と【広報発信】



成果の国際発信、若手研究者の海外での”武者修行”を通じてネットワークの恒常化をはかる

<研究計画の特徴>

- a)日英その他複数言語による大学歴史教育の情報発信により、日本からの発信レベルが向上する
- b)これまで蓄積してきた、日本史と世界史をより効果的に連結・統合する内容・方法に、教育面からの発信をくわえる
- c)「自国語か英語か」の二者択一でない多様な授業モデルの構築と、世界を動き回りうる若手研究者の養成をなしうる

<目標とする研究成果>

- (1)広義のグローバルヒストリーの教育・研究
- (2)国内外で、言語面もふくめ状況に応じ、(1)を実践できる方法論の構築と人材の育成

- ・従来の欧米中心史観によるものでなく、「アジアを正當に位置づけ、しかも日本を完全に組み込んだ」内容をもつものを構想・提示する
- ・ウェブサイトでの、日英+その他の言語を用いた成果発信をおこなう

<将来展望>

世界史との比較や世界の学界での位置などを意識しながらの日本史研究・教育の構想